

# 松前町子ども読書活動推進計画

平成29年度～平成34年度

松前町教育委員会

(松前町子ども読書活動推進計画・策定委員会)

# 目 次

## 第1章 計画の策定について・・・・・・・・・・・・・・・・P1～2

1 計画の策定・趣旨

2 松前町の現状

3 計画の対象

4 計画の期間

5 計画の目的

## 第2章 計画のための取り組み

1 家庭・地域における読書活動の推進・・・・・・・・P3～4

2 こども園・保育所における読書活動の推進・・・・P5～6

3 学校における読書活動の推進・・・・・・・・・・・・P7～9

4 町立図書館における読書活動の推進・・・・・・・・P10～13

5 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14～16

# 第1章 計画について

---

## 1 計画の策定・趣旨

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないものです。しかし、今日の子どもたちの読書離れは憂慮すべきものであり、社会全体で子どもの読書活動を推進する必要があります。

平成25年5月、国では「子どもの読書活動推進に関する法律」（平成13年法律第154号）に基づき、第三次計画となる「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、北海道においても平成25年3月に第三次計画となる「北海道子どもの読書活動推進計画（平成29年度まで）」を策定し、子どもの読書活動の環境整備を図ってきました。

松前町の計画を策定するにあたり、町内にある全ての小中高等学校の児童生徒と保護者、幼稚園・保育所の保護者に読書アンケートを実施し、また、各団体等の読書に携わる関係者から現状の取り組みや意見を聞き取り、回答や意見をまとめた結果から、読書活動の推進のために必要な事項や改善点などを分析し、本計画を策定します。

## 2 松前町の現状

松前町では、平成18年度より乳児を対象とした「ブックスタート事業」や乳児から小学生を対象とした「絵本の読み聞かせ事業」と、さらに興味を持っていただくために「工作教室」も併せて実施しています。また、海に面していて、町の形状が細長い地理的状况（図書館との距離が遠い）であることから、町立図書館以外でも本の貸出しができるように「郵便局図書コーナー運営事業」や学校への「図書貸出し事業」の実施など、読書活動の推進に取り組んできました。

## 3 計画の対象

0歳から18歳まで

## 4 計画の期間

平成29年4月～35年3月

## 5 計画の目的

子どもたちが夢と希望を持ち、健やかに育つためには、学校における教育活動の充実はもとより、学校・家庭・地域社会が一体となり、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育むための環境づくりが必要で、松前町の子どもが、あらゆる機会・場所・方法において、自主的に読書活動ができるように、読書活動の推進を目的として「松前町子ども読書活動推進計画」を策定するものです。

## 第2章 子どもの読書活動推進のための取り組み

### 1 家庭・地域における読書活動の推進

#### (1) 現状と課題

松前町子ども読書活動推進計画のアンケート調査結果を見ると、園児・児童生徒の保護者に「あなたは子どもが本を読む（読み聞かせも含む）ことが大切だと思いますか？」という質問に対して「大切だと思う」「どちらかといえば大切だと思う」を合わせて98.0%という結果でした。（調査結果資料（以下、「資料」という。）P11 問11 参照）また、「絵本等の読み聞かせに関心がありますか？」という質問に対して「関心がある」は85.7%で、その中で実際に「読み聞かせを行っている（いた）」は56.5%という結果でした。（資料P8 問2 参照）さらに、児童生徒への「あなたが本を読む場所はどこですか？」という質問に対して「自宅」が54.0%で最も多い回答でした。（資料P3 問8 参照）

松前町では平成18年度より、赤ちゃんと保護者が絵本を通して心のふれあう時間を持つきっかけをつくるために「ブックスタート事業」を実施しています。また、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、親子のふれあいを目的とした、絵本の読み聞かせや紙芝居・工作なども行う「おはなし会“どうわの日”」を実施しています。

また、月に2回、3ヵ月～1才6ヵ月までの乳幼児と保護者を対象に、保健師等が実施している子育て支援事業「すくすく教室」（乳児相談・乳幼児体操）の中でも絵本の読み聞かせや紙芝居を行っています。

課題1：読書に親しむ重要性等の啓発活動の推進

課題2：「家読（うちどく）」の推進

課題3：家庭（親・子）への各種事業参加等、情報提供の推進



すくすく教室の様子

## (2) 今後の方針

読書の習慣を身に付けるには、学校や幼稚園、保育所（園）だけではなく、家庭において本に親しむ環境づくりが必要です。特に乳幼児期にどれだけ絵本などに多く親しむ機会を持つことができるかで、その後の本への関わり方が大きく変わってくるものと思われることから、「ブックスタート事業」と「おはなし会“どうわの日”」や、町で実施している子育て支援事業での絵本の読み聞かせ等の取り組みを今後も継続し、もっと多くの人に参加していただけるように周知を図っていきます。

また、家庭で行う読書活動として、「家読（うちどく）」という活動があります。実践方法は、読んだ本について家族で話し合い、読書習慣を共有するというので、家族で違う本を読んで勧め合ったり、同じ本を読んでそれぞれの意見を話し合ったり、他にも学校で友達と家で読んだ本について話し合うなどがあり、この取り組みの周知を図り、推進していきたいと思います。

また、保護者や子どもと一緒に本を楽しめる新たな取り組みの検討・実施も図っていきたいと思います。

## (3) 具体的な推進方策

### 課題1：読書に親しむ重要性等の啓発活動の推進

- ①保護者に対して、家庭で読書に親しむ環境づくりの大切さを伝えるために、啓発用チラシを作成して、各関係機関等と連携し、各家庭に配布する。
- ②保護者や子どもが気軽に参加できる「絵本講演会」や「絵本パフォーマンス鑑賞会」など、本の楽しさを伝える取り組みを検討・実施する。

### 課題2：「家読（うちどく）」の推進

- ①子どもと保護者の読書推進とともに、読書を通じてコミュニケーションの機会を増やすために、「家読（うちどく）」推進用のチラシを作成して、各関係機関等と連携し、各家庭に配布する。

### 課題3：家庭（親・子）への各種事業参加等、情報提供の推進

- ①現在実施している「ブックスタート事業」や「おはなし会“どうわの日”」、子育て支援事業での読み聞かせ等について、町広報掲載や防災無線放送、ホームページの掲載による周知を継続する。

## 2 こども園、保育所における読書活動の推進

### (1) 現状と課題

松前認定こども園では、毎日各クラスで絵本の読み聞かせを行っており、誕生会などの行事の際には、全園児を対象にして大型絵本の読み聞かせを行うなど、絵本に親しむ機会を多く設けています。また、こども園で実施の子育て支援事業（子育て相談や、乳幼児の発達・親子の関係等について学ぶ講座）の際には、町立図書館に読書支援を依頼し、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊び、工作教室も実施しています。

清部保育所では、年齢に合わせて読書指導をしており、0～2才児には、文字のない絵本を保育士がストーリーを作って読み聞かせをしたり、3～5才児には給食後に読書タイムを設け、給食を食べ終わった子どもから順次好きな絵本や図鑑を15分～20分読むように指導しています。これらの取り組みにより、絵を見るだけでなく、文字に興味を持ち、保育士に「何って書いてあるの?」「これは何?」と積極的に質問をする子どもや、年長児では自ら読み聞かせを実践する子どもも見られるようになりました。その他にも、朝のクラス会の後や、子どもの睡眠時、帰りの前にも絵本の読み聞かせや紙芝居を行い、子どもが気に入った本があれば貸出しも行っています。

課題1：保護者への啓発活動の推進

課題2：「家読（うちどく）」の推進

課題3：読書活動の習慣化の推進



読み聞かせの様子（清部保育所）



子育て支援事業での読み聞かせ  
（松前認定こども園）

## (2) 今後の方針

こども園や保育所に通う子どもには、いかに先生や保護者が本の楽しさを伝えることができるかが重要であり、子どもが楽しさを発見することで、より一層本に親しみを持ち、読書が好きになると考えられます。さらに読書や読み聞かせの大切さを保護者にも伝える必要があり、読書を通じて、どのような良い影響が子どもにあるのかを明確にし、懇談会や配布物での啓発を継続していくことで、読書活動への理解が深まるように努めていくことが必要です。

また、子どもに読み聞かせを行うだけではなく、子どもが自ら本を手に取り、読もうとする意欲を育てることも大切であり、文章が少ない本でも自分でページをめくり、読み進めていくことに意味があると考えられます。この頃から読書を習慣化させることができれば、今後の読書活動の推進もスムーズに行うことが出来るものと思われれます。

## (3) 具体的な推進方策

### 課題1：保護者への啓発活動の推進

- ①子どもの読書活動の大切さを保護者に伝えるために、懇談会や配布物を利用して呼びかけを行う。

### 課題2：「家読（うちどく）」の推進

- ①子どもと保護者の読書推進とともに、読書を通じてコミュニケーションの機会を増やすために、懇談会や配布物を利用して「家読（うちどく）」の推進を呼びかけ、取り組みの向上を目指す。

### 課題3：読書活動の習慣化の推進

- ①子どもが自ら本を手に取り、読もうとする意欲が出るように、年齢に合う本を用意した本棚やコーナーを作り、本は表紙を正面に向けて並べるなどの工夫をし、より多くの本に触れる機会を増やすことにより読書の習慣化を図る。

### その他：町立図書館や学校図書館との連携

- ①「こども園」や「保育所」の取組みを推進するために、町立図書館や学校図書館と連携をして、必要な本（絵本）等の貸出し等、各施設のニーズに合わせたサポート体制の確立を検討する。

### 3 学校における読書活動の推進

#### (1) 現状と課題

全ての学校で朝の一斉読書が実施され、全学級に学級文庫が設置されています。特に各小学校では、朝の一斉読書時間に学校図書館司書が各教室へ出向き読み聞かせを行い、また、先生の要望に応じて、授業中に読み聞かせを行うこともあります。各小中学校の学級文庫については、町立図書館の学校支援事業である「学級図書貸出し」を利用し、毎月入替えを行っており、その他にも、各小学校に町立図書館スタッフが訪れて実施する「読み聞かせ事業」や「読み聞かせ&工作教室」、町立図書館を訪れて施設の見学や図書館の利用の仕方を学ぶ「図書館見学」も実施しています。

松城小学校では、図書委員活動の中で、校内放送で人気の本ランキングを発表したり、全校朝会で人気の本からクイズを出すなどの取り組みを行い、児童がさらに本に興味を持つように、図書委員の活動も充実しています。

松前中学校では、図書委員の活動として、月1回図書便りを発行し、委員のお勧め本の紹介や、新刊図書の案内をしています。

読書習慣の醸成や環境の整備が図られている一方で、小中学校では学校図書館図書標準冊数を満たしている学校はなく、蔵書の充実が課題となっています。

町では、平成27年度から渡島管内で初となる学校図書館司書1名を松城小学校に配置し、大島小学校、小島小学校、松城小学校、松前中学校を巡回し、読書活動の充実に努めています。これらの取り組みの結果、各学校の読書活動の推進が図られ、児童生徒が学校図書館を利用する回数・時間が増え、町立図書館と学校の連携・協力も図られるようになりました。

#### <その他各学校での図書イベントの現状>

大島小学校では、本を読み終わったら木の葉カードに記載して、木の絵に貼り、木を育てていく取り組み「読書の木」を実施しています。

小島小学校では、図鑑や辞典を使って本を探したりする「図書クイズ」、「家読（うちどく）」の実践を推進する「家読（うちどく）チャレンジ」、「読書の木」、学校図書館を保護者に開放する「保護者貸出」を実施しています。

松城小学校では、各教室で先生方が読み聞かせを行い、児童が聞きたい教室を自由に選択できるイベント「全校おはなし会」や、書店の巡回図書を利用し、たくさんの中から欲しい本を選ぶイベント「選書会」、本を読んでビンゴを達成するイベント「読書ビンゴ」、「読書の木」を実施しています。

松前高校では、新入生オリエンテーション時に読み聞かせを実施しており、また、ハロウィンとクリスマスの際には、図書委員が仮装をし、来館者数の増加を目指しています。夏季休業期間中には「青少年読書感想文全国コンクール」の応募作品を課題として、読書の推進も図っています。

- 課題 1 : 学校図書館の充実
- 課題 2 : 図書イベントの実施
- 課題 3 : 「家読 (うちどく)」の推進
- 課題 4 : 保護者への啓発活動
- 課題 5 : 町立図書館との連携 (継続)
- 課題 6 : 学校図書館司書の継続配置



読書の木 (小島小学校)

## (2) 今後の方針

学校図書館は、児童生徒が自ら必要な情報を収集・選択し、活用する能力を育てるという重要な役割を担っています。平成27年度より、学校図書館司書が配置されたことにより、本の分類整理やレイアウト修正がなされ、子どもが好きな本を探しやすく、利用しやすい学校図書館となりました。これを継続し、さらに利用する子どもが増えるように創意工夫を図っていく必要があります。

一方で、蔵書の充実が課題となっており、図書資料の最適化を進めながら、図書の整備を進めていくことが必要であり、また、学校同士で本の貸し借りがスムーズにできれば、より有効に本を活用することができるため、各学校へのシステム導入・蔵書管理等の効率化を図るための検討・協議も必要です。

学校図書館司書が学校と町立図書館のパイプ役となったことにより、町立図書館による「団体貸出し」や「読み聞かせ事業」などの学校支援事業を利用しやすくなりました。今後も町立図書館との連携を継続し、事業を実施していくことが必要です。

また、各学校で多彩に実施している図書イベントの継続、さらには、子どもの取り組みを保護者にも伝えるとともに、保護者への読書啓発活動を実施し、家庭でも読書に親しむ環境づくりを推進することが必要です。

### (3) 具体的な推進方策

#### 課題1：学校図書館の充実

- ①本の分類整理、レイアウト修正を行い、子どもが好きな本を探しやすく、利用しやすいようにする。
- ②図書資料の最適化を進めながら、学校図書館図書標準冊数を満たす図書の整備を目指す。
- ③学校同士で本の貸し借りをし、少ない蔵書でも有効な活用ができるように、システム導入の検討・協議を実施する。

#### 課題2：図書イベントの実施

- ①現在の取り組みを継続的に実施し、新たな図書イベントも検討・実施していく。

#### 課題3：「家読（うちどく）」の推進

- ①子どもと保護者の読書推進とともに、読書を通じてコミュニケーションの機会を増やすために、「家読（うちどく）」推進用チラシを配布し、取り組みの向上を目指す。

#### 課題4：保護者への啓発活動

- ①保護者に対して、家庭で読書に親しむ環境づくりの大切さを伝えるために、啓発用チラシを作成し、各家庭に配布する。

#### 課題5：町立図書館との連携（継続）

- ①学校図書館司書を通して町立図書館と連携した事業実施、学校での読書推進、町立図書館の利用推進を図る。

#### 課題6：学校図書館司書の継続配置

- ①各関係機関へ学校図書館司書の継続的配置に向けた協議を実施する。

## 4 町立図書館における読書活動の推進

### (1) 現状と課題

町立図書館は、火・水・木・金曜日の10時から19時、土・日・祝日の翌日は10時から17時まで開館しており、毎月の町広報にイベント情報等を掲載し、2ヵ月に1回、町広報へのチラシ折込みにより、新刊情報やお薦め本を紹介しています。

平成18年度より実施している「ブックスタート事業」は、生後6ヵ月前後の乳幼児を対象に、赤ちゃんと保護者が絵本を通して心のふれあう時間を持つきっかけをつくるために、図書館スタッフによる絵本の読み聞かせや、お薦めの絵本の紹介、読み聞かせのアドバイス、絵本などのプレゼントを行っています。

毎月3回実施している「おはなし会“どうわの日”」は、赤ちゃんから幼児までを対象とした絵本の読み聞かせや手遊びを行う“どうわの日【さくらんぼ】”（毎月第2・4木曜日）と、幼児から小学校低学年を対象とした絵本の読み聞かせや紙芝居・工作を行う“どうわの日【さくら・みんなの工作】”（毎月第3土曜日）があります。参加者にはカードにスタンプを押して、スタンプが溜まったら記念品を渡すなどの取組みもしており、現在では10～20組の親子が集まるようになりました。

多くの人に本とふれあっていただくために、また、町立図書館以外でも本の貸し出しができるようにと、平成17年度より町内の郵便局（現在7箇所）に図書コーナーを設置・運営する「郵便局図書コーナー運営事業」を実施しています。これにより、町立図書館に来館できない人にも貸し出しが可能となり、平成27年度は1,000冊を超える貸出実績となっています。



ブックスタートの様子



どうわの日“さくらんぼ”の様子



郵便局図書コーナー

平成 27 年度 町立図書館による学校支援事業

	大島 小学校	小島 小学校	松城 小学校	松前 中学校	松前 高校	
読み聞かせ・工作教室	○	○	○	×	×	全小学校で実施
学校図書館整備支援	×	×	×	○	×	
町立図書館見学	×	○	○	×	×	
学級図書貸出し	○	○	○	×	×	全小中学校で実施
授業等必要時の貸出し	×	○	○	×	○	

平成 27 年度から学校図書館司書が配置されたことにより、町立図書館と各学校の連携・協力が図られています。学級文庫用図書貸出しは、学校図書館司書を通し、先生の要望に応じて本の種類や冊数を変え、より効果的に実施しています。また、先生が授業で使いたい本や生徒に読ませたい本が学校図書館の蔵書にない場合、町立図書館から貸出しをするなど、学校図書館司書が町立図書館と学校のパイプ役となり、成果が得られています。

松前町子ども読書活動推進計画のアンケート調査結果を見ると、児童生徒への「あなたは、読みたい本があった場合どのようにしていますか？」という質問に対して「本屋で購入する」が 40.8%で最も多く、「インターネットで購入する」は 13.3%、「町立図書館で借りる」は 11.5%となっており、全体から見ると利用率が低いと言えます。（資料 P4 問 11 参照）また、園児・児童生徒の保護者に同じ質問をすると「書店で購入する」が 43.5%で最も多く、「インターネットで購入する」は 16.3%、「コンビニで購入する」は 15.3%、「町立図書館で借りる」は 15.0%となっており、（資料 P10 問 8 参照）以上のことから、児童生徒及び園児・児童生徒の保護者においては、共通して、本を購入して読む割合が最も多く、逆に町立図書館を利用する割合は少ないと言えます。

児童生徒の中で、町立図書館に行かない人への「町立図書館に行かない理由はなんですか？」という質問に対して「読みたい本がないから」が 39.4%で最も多く、「町立図書館が遠いから」が 24.0%で 2 番目となっています。（資料 P5 問 15 参照）園児・児童生徒の保護者に同じ質問をすると「忙しいから」が 37.7%で最も多く、「町立図書館が遠いから」が 23.2%で、2 番目となっています。（資料 P11 問 10）

課題1：現在実施している事業の継続と新たな取り組みの検討・実施

課題2：図書館サービス・事業について広く周知

課題3：各関係機関等との連携協力

## (2) 今後の方針

現在実施している「ブックスタート事業」や「おはなし会“どうわの日”」をはじめ、子どもの読書活動を推進する事業を、今後も継続して実施していきます。

松前町子ども読書活動推進計画アンケート調査の結果より、町立図書館に行かない理由で最も多いのは、児童生徒では「読みたい本がないから」、園児・児童生徒の保護者では「忙しいから」という回答でした。また、共通して2番目に多いのは「町立図書館が遠いから」という回答でした。

町立図書館では、読みたい本の問い合わせやリクエストを受け入れており、リクエストされた本については、購入の検討や道立図書館などからの借り入れができます。また、忙しい人や町立図書館に来館できない人にも貸出しができる「郵便局図書コーナー運営事業」を実施しています。

アンケート調査結果の課題を解消するために、現在実施している町立図書館での事業内容及びサービスをもっと広く周知し、気軽に図書館と「お話ができる」環境整備、利用者のニーズ把握や対応について検討し、より多くの人に町立図書館を利用していただけのように創意工夫をしていきます。

また、インターネット上で蔵書の検索や貸出しの予約が出来るようになれば、図書館サービスの円滑化が図られ、さらに利便性が増し、利用者も増加することが期待できるため、今後、図書館システムの導入に向けた検討・協議も実施していきます。

子ども読書活動推進計画の策定後は各関係機関との連携協力を継続するために「子ども読書活動推進委員会（仮称）」の設立を検討し、計画実践の検証・検討や、各関係者の取り組みの公表・確認、情報交換を行う場を継続的に設け、学校・家庭・地域社会全体で松前町の子ども読書活動を推進していきます。

### (3) 具体的な推進方策

課題1：現在実施している事業の継続と新たな取り組みの検討・実施

- ①「ブックスタート事業」や「おはなし会“どうわの日”」、「郵便局図書コーナー運営事業」をはじめ、各種事業の実施を継続する。
- ②利便性の向上、図書館サービスの円滑化を図り、新たな取り組みを実施するため、図書館システムの導入に向けた検討・協議を実施する。

課題2：図書館サービスについて広く周知

- ①現在実施している事業や町立図書館でのサービス、新刊情報などを、町広報掲載やチラシ折り込み、ホームページ掲載だけではなく、子どもや保護者に直接届くように各関係機関と連携し、広く周知を図る。

課題3：各関係機関等との連携協力

- ①学校図書館司書を通して、各学校との連携協力を深め、要望に合った学校支援事業の実施を継続する。
- ②「子ども読書活動推進委員会（仮称）」の設立を検討し、計画実践の検証・検討、各関係者の取り組みの公表・確認、情報交換を行う場を設け、継続的に実施する。



## 5 参考資料

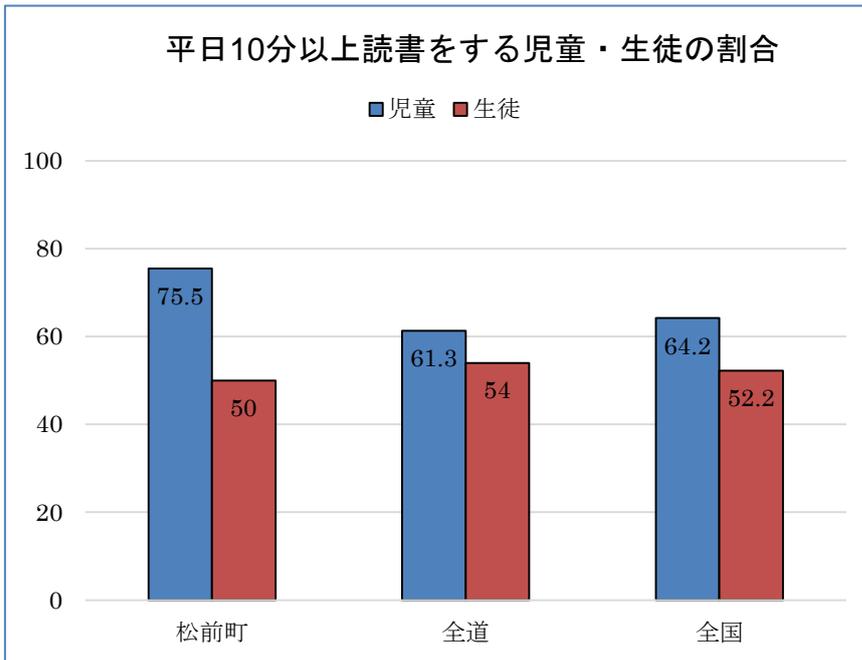
### (1) 平成27年度 こども園、保育所、各学校における読書活動の取り組み

	認定こども園	清部保育所	大島小	小島小	松城小	松前中	松前高	
朝の一斉読書	×	×	実施	実施	実施	実施	実施	全学校実施
読書タイムの設定 (朝以外)	実施	実施	×	×	×	×	×	
教科等での推進			×	実施	×	×	×	
読み聞かせ	実施	実施	実施	実施	実施	×	※1	松前中以外 で実施
校内読書感想文・画 コンクールの設定ま たは応募の呼びかけ			×	×	×	×	実施	
図書イベント	×	×	実施	実施	実施	×	実施	全小学校・高 校で実施
図書委員会による 日常的な活動			×	×	実施	実施	×	
学級活動における 啓蒙活動			×	実施	×	×	×	
「絵を見る」「本をめ くる」等の本と親し む取り組み	×	実施	×	×	×	×	×	
蔵書数 (学校図書館図書標準)	860	1,440	3,000 (4,560)	3,800 (4,040)	4,300 (7,000)	3,300 (7,360)	11,179	
学校図書館司書			配置(1名が4校を担当)				×	

※1 新入生オリエンテーション時に実施

(2) 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省実施）結果資料

No.1

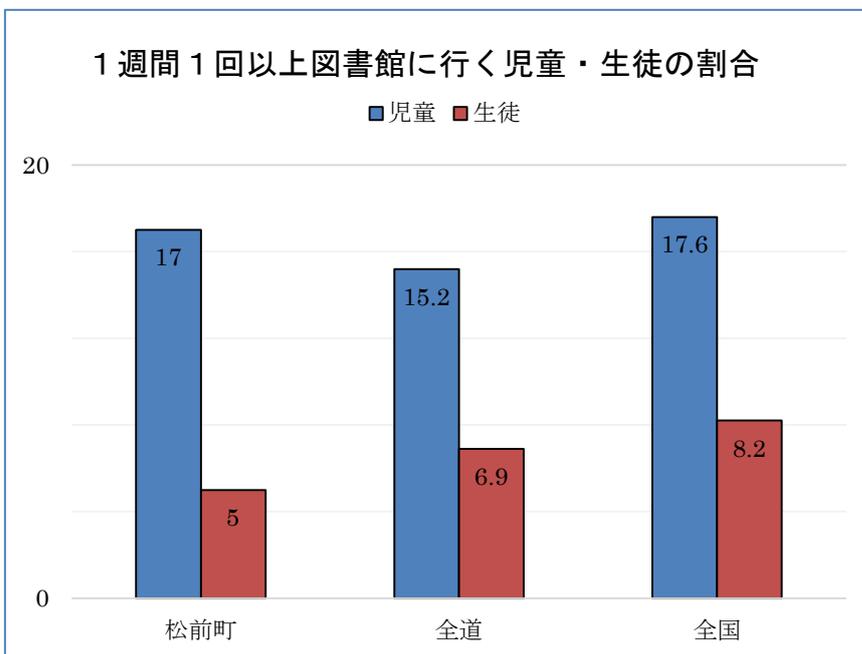


10 分以上読書をする児童が 75.5% と全道の 61.3%、全国の 64.2% と比べて高い割合となっています。一方、生徒では 50.0% と全道、全国と比べて低い割合となっています。

**ポイント**

小学校は良いが、中学校で急降下しています。

No.2



1 週間に 1 回以上図書館に行く児童の割合が 17.0% と全道と比べ高い割合で、全国の 17.6% とほぼ同等の割合であります。一方、生徒の割合を見ると、全国、全道と比べて低い割合となっています。

※この調査は、**児童は小学 6 年生**を対象に、**生徒は中学 3 年生**を対象にしています。

※この調査における読書には、マンガ・雑誌は含まれていません。

## 読書が好きな児童生徒の割合

(単位：%)

	児童	生徒
松前町	70.7	72.5
全道	72.0	71.7
全国	72.8	67.9

※読書が好きかの問いに対し、「あてはまる」「どちらか」というとあてはまる」を合わせたものを「好き」としています。

**ポイント**

全道、全国では学年が進むにつれて下がっていますが、松前町では増えています。

読書が好きな児童生徒の割合は、児童・生徒ともに全道、全国と同程度の割合であります。

以上のことから、当町の小学生は、ある程度の読書習慣が身につけている子どもが多いと言えます。一方、中学生については読書が好きと答えた生徒の割合が高いにも関わらず、読書時間が短かったり、図書館利用率が少ないという傾向があります。